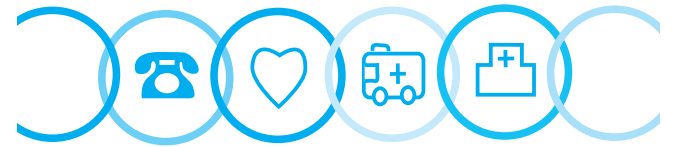


大切な命を救うために



救命の連鎖 Chain Of Survival

私たちは日常の生活の中で、いつどこで突然の病气やケガにおそわれるかわかりません。病气やケガの中には、心筋梗塞や不整脈のように心臓が突然止まってしまうもの、また、プールで溺れたり、喉にお餅をつまらせたときのように呼吸ができなくなると心臓がとまるものなど、緊急を要するものもあります。

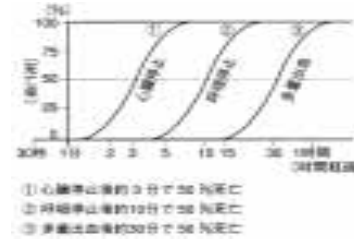
このようなときには、救急車がくるまでに、一秒でも早く手当をしないと命は救えません。一刻をあらわそう状態のとき、

- ①救急車を早々に呼ぶ **早い通報**、②すぐに手当をする **早い応急手当**、③救急救命士による **早い除細動など**、④救急指定病院等での高度な医療を受ける **早い医療処置** が必要です。

このように、早くて無駄のない連携プレーを鎖にしたと見え、救命の連鎖と言います。

3分で死亡率50%

下のグラフ「カーラーの救命曲線」※のように、心臓停止



カーラーの救命曲線 ※

からわずか3分、呼吸停止では10分で死亡率が50%に達します。これは、心臓停止や呼吸停止により脳酸素が届かなくなり、わずか数分のうちに脳細胞が死んでしまつたからです。もし、呼吸停止、心臓停止の状態になったとき、救急車がくるまで、応急手当をせすに見ていたら、命を救うのが難しいことが、このグラフからも分かります。

あなたにできること

京丹後市では、救急車が119番通報を受けてから現場に着くまで、約8分かかります。家庭や職場で、家族や友人が倒れたとき、救命の連鎖の最初の二つの輪である **早い通報**、**早い応急手当**は、あなたをはじめ、その場にいる方に、輪をつないで頂きたいのです。

助け合う 京丹後市に

病气やケガをした人がいたとき見て見ぬふりをすることなく、誰かがすぐに進み出て、応急手当が行われるような京丹後市にならなければいけません。そのためには、まず、あなたが手当ての正しい知識と技術を覚え、実行することが大切です。あなたが行動することで、命が救えるかもしれないのです。



普通救命講習会のようす

京丹後市消防本部では、峰山消防署で行っている年3回の普通救命講習会のほかに、地域や学校・事業所などでも救命講習会を行っています。お問い合わせは峰山消防署救急係(代表62-0119)までお願いします。

※ カーラーの救命曲線：フランスの救急専門医Mカーラーが1981年に報告したもので、現在の日本の応急手当講習会の理論的根拠となっています。

つながった救命の輪

<私の体験談>

「ある日の朝。道を歩いていた男の人が突然、私の前で倒れた。」



早い通報

周りに助けを求め、私は急いで119番通報をした。



早い応急手当

呼吸がなかったので、これは大変だと思い、すぐに救命講習でおぼえた心肺蘇生法を行った。



早い救急処置

救急車が到着して、心臓が危険な状態だということで、救急救命士が電気ショックなどの処置をしていた。



早い医療処置

救急車が専門の救急病院へすぐに運び、緊急手術が始まった。

無事社会復帰へ



あとで聞くと、その人は無事社会復帰したそうです。もともと心臓に持病を持っており、病院の先生から「もう少し遅ければ命がなかったが、倒れてすぐに応急手当がされたので助かった」と聞かされ、私のしたことで人の命を救えたと思うと、とてもうれしかった。



日射病



救急救命士 大森 茂

太陽の日差しが強くと、気温の高い時期がやってきました。この時期、多くなつてくるのが日射病です。その今頃は、日射病についてお話をします。

自分のやったことが...

みなさんが善意で行った応急手当については、悪意や重大な落ち度があれば、その結果の責任を法的に問われることはないと考えられています。なお、救急現場に居合わせたあなたが、たとえば救急隊の協力要請にもとづいて応急手当などを行った際、あなた自身身がけをしたたり、何らかの病気に感染した場合などは、一定の条件のもとで災害補償が受けられるしくみがあります。消防法第三十六条(三)

役立ててください 119カード



裏表

以前、消防署から皆さんの各家庭にお配りした119カードには非常時の連絡先を書き欄のほかに、役立つ応急手当の方法が記載されています。電話の近くに貼付けてあれば、もしものとき、この119カードが役に立ちます。

その中で日射病は、炎天下で長時間、運動したりすると起こります。症状はめまいや吐き気などと共に、たくさん汗をかき身体に触れると正常か、もしくは冷たくなつてきます。そのような症状がある場合は、涼しいところに移動させ、安静にし、意識があればスポーツドリンクなどの水分を飲ませてあげましょう。

日射病は、頭や首が直射日光で照らされている場合が多いので、屋外では帽子をかぶる等、予防に心がけましょう。